

「個人が集まってチームに」

寒さが感じられる季節になりました。先月は本校でもインフルエンザの罹患者が増え、なかなか学校活動がままならない日々が続きました。そんな中でも、休み明けに友達に会うと嬉しそうにしている子供たちを見ることができ、一つ一つの出来事を乗り越え、学校に集う子供たちに、頼もしさと逞しさを感じることができました。

時折、人々の集まりである集団を考えることがあります。最初に集団があって、その集団の様子に各個人が合わせてチームをつくっていくのではないような気がしています。子供を例にとっても、様々な性格や個性をもった人間が集まります。その個性を全て封印して、集団のための自分の力を尽くせというのでは、教育の理念である健やかな成長には当てはまりません。反対に、各個人がもっている個性は尊重されなければなりません。それは周囲の人間の存在や動きの邪魔をするような個性であってはならないと思いますし、そうなるともう個性とは言えない、単なるわがままな言動ということになると思っています。

大人であれ子供であれ、何人もその人が集まれば、その人がもつ考えや個性がぶつかり合うのは致し方ありません。しかし、ぶつかり合い、互いの考えを知っても、ただ頑として譲ろうとしないというのでは困ります。自分の立場や考えは大切にしながらも、よりよい考えは何か、よりよくするためにはどうすればよいかと折り合いをつけていくことが、自分自身の進歩や成長にもつながっていくものだと思います。学級集団や、子供たちが在籍する様々な集団にも同じことが当てはまります。わがままだけが横行するあまり、大切にすべき光る個性が見えなかったり、尊重されなかったり、発揮されなかったりするのではないのでしょうか？集団や他人との関係のないところで出される個性は、もはや個性と言えるのか疑問に思います。集団の中で他人との関係の中で発揮されるからこそ、人との違いやそのよさが際立つのであって、一人だけで我が道を行っているのなら、個性かどうかとも分からなくなります。

そして、周りの人との関係を大切にしながら発揮される、生かされる個性が集まってチームが生まれます。そのチームには力がみなぎります。子供たちにも、子供たちの周りにいる大人も、個性を発揮することについて誤解が生じないよう、集団の中で個性を育て、その個性によって集団の力を引き出していかなければならないと思っています。

早いもので、令和7年も終わりになります。保護者の皆様、地域の皆様。寺家小学校を支えてくださり、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。(校長 村杉 一也)